

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 宮古島市社会福祉協議会	代表者	鏡平名建次	法人・ 事業所 の特徴	社会福祉協議会が運営する事業所で、老人福祉センターを改修した建物であることから、昔からある地域に馴染みの方が多く、半数以上を認知症の方が占めており、認知症ケアを主に、「誰もが人として大切にされ、安心して暮らせる地域づくり」に貢献できる事業所を目指します。」を理念に掲げ、地域に根差した事業所を目指している。
事業所名	宮古島市社協小規模多機能型 居宅介護事業所さきやなぎ	管理者	奥松千恵美		

出席者	市町村職員	1人	知見を有するもの	2人	地域住民・地域団体	5人	利用者	1人	利用者家族	1人	地域包括支援センター	1人	近隣事業所	0人	事業所職員	2人	その他	1人	合計	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画で早いうちに外部評価の日程を決め取り組むことで全職員が参加できようとしていく。 ・日頃目につく事務所内の壁に改善計画を掲示し、職員の意識を高めることで改善計画に向けた取り組みを全職員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の初めに年間計画を配布し外部評価の日程について周知した。 ・改善計画について事務所内のボードに掲示したり、ミーティングで具体的な取り組みの時期や方法について職員間で話し合う機会をもったことにより、玄関前の水溜まりの改善等につながった。 	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤と非常勤についてがわかりづらい ・成年後見制度については利用に繋がらなかったというよりは必要性がある方がいなかったことを考えている。 ・権利擁護サービスと成年後見制度は分かってもらいたいため勉強会をしたらどうか。 ・宮古島市にはご家族が島外に出て独居の方がたくさんいる。 ・認知症のある方は今後ますます増えていく、またご家族がいても、関係性もいろいろあり、権利擁護サービスや成年後見制度の利用が増えることが考えられる。 ・質問の内容自体が難しくわかりづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度や権利擁護について学ぶ機会をつくる。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関のドアが下がっていること ・開閉時に床面のタイルにあたり不快な音がしたり、開けづらくなっている。今年も改修工事を行う予定で業者へ見積もりを依頼、引き戸へ変更し利用者や来所の方が安全に気持ちよく出入りすることができるようになる。 ・樹木の伐採について宮古島市と協議し、許可が下りればなるべく葉が生い茂る前に短く伐採し近隣住民の不快を無くしていく。安全 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関のドアの改修工事は行わず、現状で不快音がでないように開け方の表示をした。 ・その結果、完全ではないが気になる不快音は減っている。 ・樹木の伐採については特に秋ごろに一度行い、その後は3月を予定している。 ・雨天時の水溜まりを解消するため、セメントでの補修を職員が行っている。 ・脱衣所の床面については滑 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内に入りやすい工夫として、駐車場内にスペースを分かり易くする線があればいいのではないかと。 ・大切な樹木を伐採するのはなんでもかわからない。 ・夜間明かりが暗いことには事業所だけでなく、地域住民の安心感にもつながる。 ・事業所内の外灯を点けたり、必要であれば関係各所へ要請するなどといい。 ・建物の老朽化による移転の必要もあると聞いているが、この場所はとてもいいので 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木の伐採については定期的に行う。 ・夜間は事業所の外灯をつけるようにする。 ・敷地外の街灯については管轄するところへ相談し改善してもらうようにする。 ・駐車場に線をひき、駐車スペースがはきりわかるといい。

	<p>に採るためにひつようであれば専門業者への依頼も検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨の日に玄関先に水が溜まらないうように改善する。 ・浴室脱衣所の床面が安全であるように他の事業所も見学し参考にしたうえで改善する。 	<p>らず安全なカーペットを使いこまめに屋外に干すなど衛生面にも配慮することができている。</p>	<p>何とか残せる方法があればいい。</p>	
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>・イベントを通して地域の方が来所して頂ける機会をつくって行くことできやーぎを知ってもらい理解して頂くきっかけをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の勉強会を自治体やゲートボール団体などへ持ちかけ、包括支援センターと一緒に事業所や地域にでて勉強会をする。 	<p>・社協のイベントなどその他の地域開催の情報があればできるだけ参加するようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に出で一一緒に勉強会を行う機会はなかった。 	<p>・包括支援センターはきやーぎとどのように関わるのかわかりづらい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括支援センターとの関わりがなかなか持てないのは何故なのか。 ・お互いに情報交換できるようにしている。 ・沖縄本島等では市民オンブズマンもある。 ・地域の懇談会には是非参加できるようにした方がいい ・地域の人がいづつでも気軽に来所し、一緒に楽しむことができるように音響設備にも力入れた方がいいのではないか。こんなにもいいホールもあるのに音響の設備が全くないのはもったいない」企画振興課などへの要請で地域公民館などはしっかりと音響設備をもっている。きやーぎも地域住民にとって大事な拠点である。要請してみてもどうか。 	<p>・地域懇談会などに参加できるように他部署との連携をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症や寝たきりなど様々な理由で介護が必要になってからも安心して暮らし続けられるような地域づくりを目指し包括支援センターや関係各所と連携をとる。 ・イベント開催の案内を続けていく ・など、来所して頂ける機会を作り、お互いに顔の見える関係作りを目指していく。 ・音響設備を整え、地域の方がより来所しやすい環境作りをする。
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>・地域行事への参加を今後も続けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関わりを通して顔の見える関係を作り、気軽に相談し合えるようにしていく。 	<p>・自治会の敬老会へ出席したり、馴染みの美容室へ通い続けられるよう支援した。</p>	<p>・地域のイベントに参加したり、敬老会などにも参加してとても良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段なかなか会えなくても、行事に参加することで声を掛けあうことができているという時に頼りになる。 	<p>・本人と地域を切り離さないように、きやーぎに由来する以前の暮らしも現在もしっかり把握し、本人らしさを大切に支援していく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>・敬老会などご家族や地域の方が来られる機会にはできるだけ委員も含めた情報交換を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で気になっている方がいる場合には事業所で関わるだけでなく、必要に応じて行政や地域包括支援センターへつなげていく。 	<p>・定期的に話し合いに来て頂き、それぞれの立場から意見を出して頂いている。その中には自分たちだけで解決できない問題もあり、意見を頂くことで事業所の運営に對し強い励みになっている。</p>	<p>・いろいろな話が出て次によいのか明確になった点が良かったと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な立場から話し合いをすることができている。 	<p>・事業所の移転先についてやその方法など、情報を寄せて頂き意見を交わしながらより一層の地域に密着した必要とされる事業所を指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で気になっていてる方がある場合には事業所で関わるだけ

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>く。</p>	<p>・これまで通り年2回以上訓練を行う。 ・宮古島市全体で実施されている地震津波避難訓練の機会を利用しての訓練を実施する。 ・災害や緊急事態の時に近隣の方の協力が得られるような組織作りを目指し、連絡先を聞いて連絡網の作成を行う。 ・防災計画について推進会議の場でも話し合って頂けるようになる。</p>	<p>・宮古島市全体での取り組みは今年度は実施が無かったとの事で、事業所内での訓練を実施した。 ・連絡網の作成には至らなかった。 ・防災計画については推進会議の場で計画について話あるようにできなかつた。</p>	<p>でなく、必要に応じて行政や地域包括支援センターへつなげていく。 ・運営推進会議に吉田、長間など近隣の自治会長を招き防災について一緒に取り組む。 ・これまでで2回以上の防災訓練を実施する。 ・イベント開催をきっかけに地域の方が事業所に足を運んでくれるようにする。 ・自治会長を含めて防災について話し合いを行い、地域の防災について一緒に考え取り組む。 ・城辺地域の防災について他部署や他機関の訓練やイベントがあれば参加する。</p>
----------------------------	-----------	---	---	---